

チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	「働くまち鎌倉」「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」を実現する	神奈川県鎌倉市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	渋滞御免アプリ		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	KAMA-gination		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2	
メンバー数（公開）	3名		
代表者（公開）	樋口颯真		
メンバー（公開）	樋口 佳奈子 樋口 琉生		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2020_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイザーの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
---------------------------------	---

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

人力車などは、時間指定で駐車場まで来てもらえるので、時間のロスが少なく、密も防げる。
また予約時間内であれば、駐車場に自由に入出りできるため、障がい者や高齢者、子連れなどには便利。
新しく施設などを作る必要がないため、一般の駐車場よりも安く提供できる予定。

- ④ 観光ルート近辺の飲食店や土産屋、名所なども立ち寄り先として提案し、まとめて予約できる。（店舗からは、宣伝費をもらい運営コストに当てる。）
自粛明けに、市内の人気飲食店で感染者が出て、突然営業停止になったが、それを知らずに多くの観光客が殺到したことがあった。事前予約が増えれば、緊急な事が起きても事前に連絡ができる。さらに密の回避、時間の節約、飲食店は事前に客数が予想できるので食品ロス削減にも繋がる。
- ⑤ アプリを利用して徒歩で観光することで、消費カロリー表示や、スタンプラリー、観光ポイントに設置した QR コードを読み込むと昔の鎌倉の風景（馬が往来し、武士の喧嘩など、武家の生活を覗ければ面白そう）を見ることができるシステムなどを導入すれば、ウォーキングや自転車での観光も楽しくなる（はず）。またルート途中のトイレやコンビニの検索もできる。
- ⑥ この渋滞御免アプリの利用者が増えれば、住民向けに、どのエリアが何時ごろ渋滞するかなどの情報も提供できるようになり、生活に役立つ。

💡 また、従来のサービスにオプションとして実施したいサービスがある。

「鎌倉バレットパーキング」だ。（ホテルの Valet parking service をアレンジ）

市内に数か所のパーキングポイントを作り、観光客が車を停車したポイントから希望のポイントまで、ドライバースタッフが運ぶ。

例えば北鎌倉近辺で車を預け、北鎌倉～（徒歩）～鎌倉～（人力車）～長谷～（江ノ電）～七里が浜～（徒歩）～腰越に移動した後、江の島付近のポイントに移動した車に乗って帰宅することができる。

これは、鎌倉市内のタクシー会社との連携を提案したい。市内のタクシー会社 5 社に取材した所、コロナ禍でほとんどの会社は、6～8割程度観光客が減っているという。そのスタッフを活用して、観光客に便利なサービスを提供すると共に、土地感のあるドライバーが車を動かすことで、渋滞回避ができる。

利用方法は下記の通り。

- ① 観光客は、事前にアプリで車の引き渡しポイントと、ピックアップポイントを予約。
引き渡しポイントに 11 時までには持っていけば、16 時以降にピックアップポイントで車を引き取れる。
- ② キーの受け渡しは、パーキングポイントに暗証番号式の小型ロッカーを設置し、キーを収納後に暗証番号をアプリに入力。ドライバースタッフが番号を確認してキーを取り出し、車を移動させる。
- ③ ピックアップポイントでも、ドライバースタッフが入れた暗証番号を確認し、観光客がキーを取り出せるようにする。

これは、鎌倉市役所の観光課の方と打ち合わせをした際に、「徒歩で観光する客を増やしたい（特に鎌倉～長谷間の商店街）」という話があり、商店街を通過する観光客を少しでも増やす方法を考えたもの。

またパーキングポイントは、作る場所が重要になるため、最初は試験的に、アプリに登録された民宅駐車場から、別の民宅駐車場へ移動させるサービスを行い、観光客の動きなどデータを取り、分析すると良いかもしれない。

(2) アイデアの理由（公開）

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます>

以下の写真は、平成28年1月10日の鎌倉市の交通状況を表したものです。

見て分かる通り、主要な道路は真っ赤で、大渋滞を起こしているのが、一目で分かる。

このような渋滞は正月明けのみならず、ゴールデンウィークや夏休み、紅葉時期、そしてコロナ禍の最近では、車で観光に来る人が増え、毎週末、同様な渋滞が頻繁に起こっている。



(出所：第1回鎌倉エリア観光渋滞対策実験協議会「鎌倉市の提案内容について p.3」より抜粋)

また鎌倉の渋滞問題は、主要道路だけでなく、市民のための生活道路にも影響を及ぼしている。

その例として、こんな話をよく聞く。

鎌倉市では、子供の習い事のお迎えや買い物をするとき、事前に付近の渋滞情報をママ友や、知り合いに尋ねて、車でどの道路を使った方が良いか判断し、場合によっては車を諦め、自転車で迎えに行くことも多い。本来、市民の暮らしとは、観光客の往来を気にすることなく生活することを理想とするが、現実問題として、鎌倉市では目的地付近の渋滞状況を確認してから自宅を出発する家庭も少なくない。

しかしコロナ禍の今、大幅に観光客を減らすことは避けたいのが実情。

そこで私は、もし、目的地付近の渋滞情報を詳しく調べることができ、雨雲レーダーのように数時間後の渋滞情報も予測できるのがあれば便利だと考えた。それが、この渋滞御免アプリ発案のきっかけである。

そして、渋滞御免アプリの利用者が増えれば増えるほど、何月何日に何台、どこの駐車場を何時から何時まで、そこからどのような移動手段でどの観光地をどのルートで回ったのか、などのデータを集め、蓄積されたデータを元に、予約状況、天気なども考慮し、簡単な未来予知が可能になると思う。

この未来予知は、アプリ利用者あつてのビッグデータなので、市民用に提供するためにも、第1段階として「渋滞御免アプリ」でのデータ集めが必須となる。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

☞ また一概に鎌倉市民と言っても、色々な立場や意見がある。

観光ポイントの近隣に住んでいて、観光客の多さに迷惑している人たちも、駐車場を貸して収入になるなど、少しでもメリットがあれば、快く観光客の受け入れをしてくれるかもしれない。

また道路に動力センサーを埋め込んで、その上を人が歩くと発電できる技術があると聞いた。例えば、それを小町通や鶴岡八幡宮、鎌倉駅の改札口に設置して、観光客の人たちに電力を作ってもらえれば、以前問題になっていた食べ歩きさえも、鎌倉市民にもメリットができて、問題点に対し前向きに対処できるかもしれない。

☞ しかし、住民は駐車場の利用を許可するにあたって、私生活を見られるリスクがある。人によっては恐怖を感じる場合もある。また、元々生活道路の渋滞解消を目的とし始めたものが、潜在的な駐車場を提供することで、逆に一部の場所が混むなどのケースも考えられる。さらに駐車場の総数を増やすことは、流入人口を増やしてしまう結果になりかねない。

これらの対処のためには、近隣住民や市民に不安を与えない話し合いの場が必要になってくると思う。

上記メリットの部分や、最終的に市民生活を快適にすることを目的とすることを、わかりやすく伝えれば、理解してもらえるのではないかと予想する。

→ その点に関して、鎌倉市役所の交通課／観光課などが、積極的に関与するのを期待している。そして、未使用の駐車場提供などにも、協力が必要だ。

年末にかけての数週間、“akippa”などのスタッフが提供してもらえる駐車場を探して営業する姿を見るようになった。高齢者宅に出向きシステムの説明をするのだが、突然見ず知らずの人が訪ねてくるので、恐怖を感じ、話も聞かない家が多いようだ。

「市内の渋滞を少しでも解消し、生活を快適にする」という目的を丁寧に説明することに加え、鎌倉市役所公認の事業などという説得力があれば、高齢者の方も話を聞いてくれると思う。

(総括)

MaaS、食品ロス、再生可能エネルギーなどの社会課題を含め、市民生活の問題を解決できることを目的として、このアプリを提案したい。

さらに鎌倉は長年、「武家の古・鎌倉」として、世界遺産登録を目指してきた。しかし2013年に推薦取り下げが決定し、現在は中長期的な目標として推薦書案を作成している。（2020年度から、当面の間休止中）

しかし鎌倉市民が愛するこの街には、武家の街としてだけでなく、海や山、この地にこだわり住み続ける人達の特有な文化がある。それらすべてを含めて、世界に誇れる観光地としてアピールしていくためには、IT化は必須である。

IT先進国と言われている中国の観光地に行くと（北京、上海、西安 etc.）世界中からくる観光客を捌くために、ITが効率良く使われ、観光客がストレスなく滞在するための気遣いを感じる。

鎌倉がコロナ禍でも元気な観光地であるために、そしてアフターコロナでは、世界の人たちにまた鎌倉を訪れてもらえるように、そのきっかけとしても、このアプリは意味があると考えている。

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきま>

○アイデアを実現する主体

〈主体〉 渋滞御免アプリオペレーター

〈提携〉 アプリ開発システム会社

AI データ解析会社（目的地近辺の道幅や歩道状況、登録駐車場のデータ収集・解析）

時間貸駐車場運営会社

公共交通機関

タクシー会社

商業施設（飲食店・お土産屋等）

観光施設（神社仏閣等）

駐車場保有企業・個人

○アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模

○その現実的な調達方法

・時間貸駐車場、タクシー会社などは既存の企業との提携を考えているので、特に新たなヒト・モノ・カネは不要。

・資源が必要となるのはアプリや運営システムの開発費用と AI データ解析費用。

・アプリ開発は MaaS で実績のある会社を起用すれば、それほど高額な費用は掛からないと考えているが、約 10 百万円程度。

・運営システム開発も同様に MaaS で実績がある会社の既存システムを改良・改善すれば良いと考えており、約 10 百万円程度を見込む。

・公共交通機関等からの関連データの提供にも費用が掛かると思うが、地域経済活性化・効率化に資する事業と考えてもらい、何らかの補助金などが受けられないか交渉する。

○アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス

・提携を予定する時間貸駐車場運営会社および公共交通機関、タクシー会社などの協議に約半年。

・アプリ開発・システム開発に約半年。上記の提携先との協議と並行して進める。

・渋滞御免アプリのオペレーション検証、実証実験を実施する期間が約 1 年。実現までに約 1 年半を目標とする。

○実現の制度的制約がある場合にはその解決策等

・企画作成過程で、鎌倉市役所にて行政経営課/交通政策課/政策創造課の職員計 3 名にこのアプリ案について相談。→ そこで駐車場に関する条例の話題が出て、鎌倉市では駐車場を建設する時に、いくつかの条例に従う必要があり、渋滞御免アプリもそれに従う形が理想だとアドバイスがあった。

・その条例はこちら。

→ **鎌倉市条例第 10 号「鎌倉市特定土地利用における手続及び基準等に関する条例」**

→「条例適用のコインパーキングについて(第 2 条)」

- (ア) 24時間営業であること。
- (イ) 不特定多数の人が利用できる部分があること。
- (ウ) 出庫時に利用した時間の料金を支払う仕組みであること。

(ア) と (イ) は既にクリアしているため、(ウ) の改善が必要。

そのため、出庫時に利用した時間の料金を支払う仕組みとする必要があり、条例に違反しないことが必須である。

利用した分の駐車場代を後払いするシステムは、既に実際に中国のアリババ・グループが運営する中国最大級のオンラインショッピングモール、淘宝网（タオバオ）や、同じく中国の大手ライドシェア企業が運営する配車サービス、滴滴出行（ディーディー）などで使用されている。

そのシステムは Amazon などの日本で使われているオンラインショッピングマーケットと大半が同じ。業者から商品が利用者に届くまで、そして返品の際に利用者から業者へ商品が届くまでの期間中は、利用者と業者を結んでいるタオバオが代金を保管している。このシステムを使えば、駐車場の後払いが可能になる。

「渋滞御免アプリ イメージ図」

